

8 福薬業発第 187 号
令和 8 年 7 月 24 日

各地区薬剤師会会長 殿

公益社団法人福岡県薬剤師会
常務理事 窪田 敏夫

令和 8 年度福岡県歯科医学会の開催について

平素より本会業務に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

標記の件につきまして、公益社団法人福岡県歯科医師会から、別添のとおり開催案内がありましたのでお知らせいたします。

本学会では、「健やかに生きる～心と身体（からだ）の歯科医療～」をテーマに、「歯科における和漢薬の応用」及び「心も診る歯科医療」と題した講演並びにポスターセッションが予定されています。

ご多忙とは存じますが、貴会会員へのご周知方よろしくお願いいたします。

福岡歯発第822号
令和8年7月16日
(学術部扱い)

公益社団法人福岡県薬剤師会

会長 小 田 真 穂 様

公益社団法人福岡県歯科医師会

会長 江 里 能 成

令和8年度福岡県歯科医学会の開催について

時下、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、本年度の福岡県歯科医学会を下記により開催いたしますので、皆様方にお伝えいただき、多数ご参会くださいますよう別紙のとおりご案内申し上げます。

記

1. 期 日 令和8年9月6日(日) 9:30 ~ 14:00
(受付 9:00~)
- ※同日、11時25分よりポスターセッションを開催
1. 場 所 福岡県歯科医師会館 5階
福岡市中央区大名1丁目12番43号
1. 講 演 ・ 歯科における和漢薬の応用
大阪歯科大学歯科医学教育開発センター 教授 王 宝 禮
・ 心も診る歯科医療
東京科学大学大学院医歯学総合研究科 歯科心身医学分野
教授 豊 福 明
1. 申込方法 お申込みにつきましては、右記もしくはチラシ掲載の
QRコードをご利用ください。
1. 申込期限 令和8年8月31日(金)





令和8年度福岡県歯科医学会

日 時 令和8年9月6日(日) 9:30～14:00

場 所 福岡県歯科医師会館

講演 1 9:40～11:10 (会場 5階「大ホール」)
「歯科における和漢薬の応用」
大阪歯科大学歯科医学教育開発センター 教授 王 宝禮

講演 2 12:15～13:45 (会場 5階「大ホール」)
「心も診る歯科医療」
東京科学大学大学院医歯学総合研究科 歯科心身医学分野 教授 豊福 明

受講対象者 歯科医師、歯科医療関係者(歯科衛生士会員、歯科技工士会員)、
歯科学学生(歯学部学生、歯科衛生士学生、歯科技工士学生)

※上記講演は特別研修10単位が取得できます。

11:25～12:05 (会場 5階「中ホール」)
ポスターセッション

申込方法 QRコードもしくは会員ページより、必要事項を入力のうち、
令和8年8月31日(月)までにお申し込みください。
※ウェブ申し込みが困難な方は事務局までお問い合わせください。



託児所申込 当日に託児所をご希望される方は、QRコードより、
令和8年7月31日(金)までにお申し込みください。
※託児の当日の申し込みは不可です。事前申し込みをお願いいたします。

令和8年度

福岡県歯科医学会

健やかに生きる

～心と身体(からだ)の歯科医療～



東京科学大学大学院医歯学総合研究科
医歯学系専攻・歯科心身医学分野・教授

豊福明

「心も診る歯科医療」

歯科患者の高齢や咬合違和感、口臭恐怖症など、精神疾患を背景に持つ歯科的不定愁訴への対応が重要視されている。歯科はこの領域における、歯科心身医学と医療倫理や総合診療の中で実践してきた経験をもとに、「心も診る歯科医療」の重要性と実際の取り組みについて紹介する。

受講料無料

大阪歯科大学
歯科医学教育開発センター教授 王宝禮

「歯科における 和漢薬の応用」

2012年に歯科用漢方薬が保険されたが、一般歯科での活用は十分でない。近年は、口腔乾燥症や舌痛症、味覚障害などに対する漢方治療が注目されている。本企画では、歯科臨床に役立つ漢方の基礎知識と実践的な活用法を学ぶ。

令和8年 **9.6** SUN

9:30～14:00

※ポスターセッションは11:25より
詳細は裏面をご覧ください

会場

福岡県歯科医師会館 5階「大ホール」

受講対象

歯科医師・歯科医療関係者・歯科学生

県歯HPまたは案内文書等
掲載のQRコードより申込



公益社団法人

福岡県歯科医師会



タイムスケジュール

9:30~9:40

1. 開 会
2. 挨拶

9:40~11:10

3. 講 演 ①

「歯科における和漢薬の応用」

大阪歯科大学歯科医学教育開発センター 教授 王 宝禮

11:10~11:15

質疑応答

11:20~12:05

ポスターセッション

- ① プレオルソを用いた矯正基本治療により下顎前歯部嚢生が改善した症例
～咬唇癖を伴う症例～
北九州市八幡西区開業 田代 芳之
- ② 成人の嚢生とクロスバイト2症例の矯正歯科治療と歯周組織について
福岡市博多区勤務 佐藤 英彦
- ③ インプラント周囲疾患の診断におけるバイオマーカーの有効性の検討
九州歯科大学 口腔再建補綴学分野 助教 野代 知孝
- ④ 福岡医療短期大学歯科衛生士研修支援センターにおける取り組み
～令和7年度研修概要と受講者質問紙調査結果～
学校法人福岡学園 福岡医療短期大学
歯科衛生士研修支援センター教授 馬場 篤子
- ⑤ 極度の偏食による低カルシウム血症の自閉スペクトラム症児に
永久歯重度形成不全を認めた1例
地方独立行政法人 福岡市立病院機構福岡市立こども病院
小児歯科 科長 小笠原 貴子

12:05~12:15

休 憩

12:15~13:45

4. 講 演 ②

「心も診る歯科医療」

東京科学大学大学院医歯学総合研究科 歯科心身医学分野 教授 豊福 明

13:45~13:50

質疑応答

13:50~

5. 感謝状授与

13:55~

6. 閉 会



※ポスター展示は、

9:30~14:30 に実施いたします。

健やかに生きる ～心と身体（からだ）の歯科医療～

歯科における和漢薬の応用

大阪歯科大学 歯科医学教育開発センター 教授

王 宝禮

歯科診療室では、西洋薬で対応できない口腔疾患に対して漢方薬を処方するケースが多くなったように思います。その背景には、日本歯科医師会編の「薬価基準による歯科関係薬剤点数表」に13種類の漢方薬が掲載された影響もあると思います。

また、3年前の第116回から第118回、第119回の歯科医師国家試験の選択肢に「和漢薬」、「立効散」、「半夏瀉心湯」の語句が出題されたことから、6年生は13種類の漢方薬とその効能効果を暗記していました。

このように、歯学部において漢方医学は臨床でも教育でも大変重要な時期であると思われます。薬機法で漢方薬の効能効果が表示されていますが、本来の選択には中国医学や日本漢方の概念が必要です。

今回は漢方薬の処方論、副作用、相互作用に関して身近な添付文書とインタビューフォームから初めての歯科医療従事者でもわかりやすいよう説明してまいります。

一 略 歴 一

- 1986年 北海道医療大学歯学部卒業
- 1990年 北海道大学大学院歯学研究科博士課程修了
- 1990年 北海道大学歯学部予防歯科学講座助手
- 1992年 米国フロリダ大学歯学部口腔生物学講座研究員
- ～1994年
- 1995年 大阪歯科大学薬理学講座講師
- 2002年 松本歯科大学歯科薬理学講座教授
松本歯科大学附属病院口腔内科（漢方外来）担当
- 2010年 大阪歯科大学歯科医学教育開発室
- 2015年 大阪歯科大学細菌学講座教授
- 2020年 大阪歯科大学歯科医学教育開発センター教授



期 日：令和8年9月6日(日)
場 所：県歯会館5階 大ホール

心も診る歯科医療を目指して

東京科学大学大学院 歯科心身医学分野 教授

豊福 明

通常の歯科処置のみでは解決が困難な難治性の歯痛、咬合の異常感、何とも表現しにくい不快感、口臭や審美的問題などがしばしば経験される。近年では、BMS、咬合違和感症候群、口腔セネストパチーなどの用語で歯科医師国家試験の出題基準に収載され、口臭恐怖症も出題されている。これらの3割前後が明確な精神疾患を合併した歯科的愁訴で、密な医科歯科連携が必要な一群も含まれる。

2007年に本学に赴任して以来、もっぱら「こてこての“歯科心身症”」と「精神疾患患者の歯科的不定愁訴」への対応に追われている。実は、研修医時代からお世話になっている福岡市内の病院歯科口腔外科でも月1回の外来診療を続けてきているが、そこでは「新鮮な心身症」が多い。舌痛症、非定型歯痛、口腔セネストパチーなどが教科書的な症状を呈し、素直で良好な治療反応性が得られやすいため、1日で40人強の再来と数人の新患が診察可能となっている。

本学では大学院講座と「歯科心身医療科」という専門診療科が設置されているが、この専門特化にも功罪があるように感じている。歯科にもそのような専門性があるとアピールできることはメリットである。デメリットは、やはり「心身症」への stigma（※1）があり、当科受診を拒む患者や家族も少なくないことである。特に最も心身医療が必要な咬合違和感症候群ほどその傾向が強い。結果としてあちこちで拗れまくった症例が集積されることになる。その点、病院歯科では妙な偏見抜きに「ここは歯科、自分は歯医者」と本質的な治療に導入しやすい。

「心も診る歯科医療」に精神疾患の鑑別も含めた歯科心身医学は必須だと思う。が、その実践の場としては「最後の砦」などと囁いて専門診療科に引き籠るより、病院歯科にセンチネルとして潜み、速攻でインターセプトしたほうが診療効率は良いかとも思いつている。

それでも当院では矯正歯科とのコラボが定着し、ようやく補綴科との協働体制も立ち上げた。福岡市内ではエンド専門医とのネットワークも確立しつつある。より歯科界に溶け込んだ心身医学を目指してきた20年間の取り組みをお話したい。

※1 stigma とは、日本語の「差別」や「偏見」などに対応しています。具体的には、「精神疾患など個人の持つ特徴に対して、周囲から否定的な意味づけをされ、不当な扱いをうけること」を意味します。

一 略 歴 一

- 1990年 九州大学歯学部卒業
- 1990年 福岡大学医学部歯科口腔外科入局
- 1991年 白十字病院歯科口腔外科にて部外修練
- 1992年 福岡大学病院助手（歯科口腔外科）
- 2000年 医学博士取得 福岡大学 851号
- 2001年 福岡大学病院講師（歯科口腔外科）
- 2007年 東京医科歯科大学大学院歯科心身医学分野教授
- 2024年 東京科学大学大学院歯科心身医学分野教授
（東工大との統合）

